



怒濤の一年

弁護士 甲斐 みなみ

明 けましておめでとうございます。
昨年は怒濤の一年でした。

春には、2歳の子どもが熱性痙攣で入院。

24時間体制の付添をするよう言われ、夫と私の母と三人交代で付き添い、夜は病院に寝泊まりしました。

春以降、自宅前に14階建マンションの計画が立てられ、近隣の方と反対運動。マンション建設差止事件の弁護士としての経験から、建築士の先生にご協力いただき中層代替案を業者に提示しましたが、残念ながら計画中止には至らず。唯一、伐採予定であった敷地内の大きな桜の木を移植するよう要望し、桜の木を守ることはできました。

仕事では、年始早々大型の倒産事件で缶詰状態。HPVワクチン(子宮頸癌ワクチン)薬害訴訟が本格化し、東住吉放火冤罪事件の国賠訴訟にも参加することとなり、日常の業務とあわせ多忙を極めました。夏には、連日の夜中までの仕事で急に頭が働かなくなり、過労と加齢を痛感しました。

前号でご紹介したバンド活動も活発になり、レパートリーも20曲近くまで増えました。

公私共々忙しく、1年間続けたお弁当生活はあえなく破綻。長女のピアノ発表会用のドレス作りも先延ばしです。

いただいた仕事は手を抜かずやりきることをモットーとしていますが、今年は、健康やプライベートとのバランスもうまくはかっていきたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



私の中の働き方改革

社会保険労務士 森下 浩之

新 年明けましておめでとうございます。
ここ数年のニュースレターにおける私の挨拶欄を振り返ると、「労働基準監督署の立入調査の対応が云々」とか「趣味のマイカーが壊れた云々」という話題ばかりで、代わり映えしない年を重ねている感がありましたが、昨年は、公私ともに変化のあった1年でした。

仕事について振り返ると、担当事務員を採用することができ、担当事務員との役割分担により、労務コンサルティング等に注力する体制ができつつあります。データ管理体制の移行や社会保険手続の電子申請など、IT化をさらに進めることで、より業務の効率化を図ることもできました。これらの業務改善により、自分の課題がより明確になったように思います。

家族について振り返ると、上の長女は妻のDNAを受け継いだのか、負けず嫌いで弁が立つ特性が年々顕著になり、もはや私ではなかなか歯が立ちません。下の長男(2歳)は発語が遅く、もっと脳に言葉の刺激を与えないといけなのでは?と心配しておりましたが、昨年後半には二語文を喋りはじめ、保育所で習った歌を踊りながら唄うなど、少しずつですが成長しております。子の成長に喜ぶ反面、私の老眼はますます進み加齢を感じる1年でした。

今年は、身体のアンチエイジングに励みつつ、昨年の業務改善で明確になった自身の課題をクリアし、少しずつですが、目標を実現する年にしたいと思ひます。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

社労士マメ知識

～職業安定法改正(平成30年1月1日施行)～

昨今、「ブラック企業」だけでなく、「ブラック求人」という言葉もあるようで、厚生労働省の統計によれば、ハローワークの求人だけで、求職者側からの苦情が平成27年で10,937件、平成28年で9,299件あったとのこと。賃金や就業時間について、求人票の内容と異なる条件であったという苦情が多いようです。苦情件数自体は減少傾向にはありますが、未だトラブルが絶えない状況にあります。

そこで、厚生労働省は、これらのトラブル是正対策として、職業安定法を改正し、改正法は平成30年1月1日から施行されます。職業安定法とは、労働者の募集・職業紹介の方法などについて定めた法律です。今回の改正では、求人トラブルを是正することが目的とされており、①試用期間中の労働条件を明示すること②当初明示した労働条件が変更となる場合は変更内容を速やかに明示すること③固定残業代制度をとる場合は、対象金額、対象残業時間数、固定残業代を超過する残業代の精算すること等を明示すること④虚偽の求人申込みを罰則対象とするなどが主な改正ポイントとなります。

また、ハローワーク・職業紹介事業者の全ての求人を対象に、職業安定法違反を繰り返す事業主の求人登録を拒否することも、既に可能とされています(平成29年4月1日施行)。

求人トラブルを回避するために、求人票の記載には、使用者・労働者とも細心の注意を払う必要があります。



tea break オペラ「フィガロの結婚」

昨年、指揮者佐渡裕氏プロデュースのモーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」を鑑賞しました。

子どもの時からモーツァルトが大好きで、いろんな伝記を読みあさり、映画「アマデウス」も20回以上は見ています。オペラ鑑賞に備えて、マンガ「フィガロの結婚」を読み、他の指揮

者の公演DVDで予習してのぞみました。

物語は、伯爵の従者フィガロと女中スザンナの結婚式当日の出来事。実は伯爵が新婚スザンナに手を出そうとしていることが発覚。フィガロとスザンナは無事結婚すべく策を練り、伯爵夫人は伯爵の浮気に心を悩ませ、他の登場人物も二人の結婚を応援したり邪魔しようとしていたりします。最後にスザンナは伯爵と密会の約束をし、伯爵夫人がスザンナの服を着て密会の場へ行き

ます。浮気心のばれた伯爵は深く反省するという実に馬鹿げたラブストーリーです。

この馬鹿げたストーリーを極上の美しい音楽で飾るというのが、モーツァルトらしいです。伯爵が最後に浮気を反省する時のアリアなど、馬鹿馬鹿さと音楽の美しさとの乖離に、思わず笑ってしまいました。

